

住む

くわい、そのべ本陣へ

5月1日、園部町本町商店街に響き渡る子どもたちの元気な歓声。「こんなこと久しぶりやなあ」いつもの穏やかで閑静な町の空気からは一転、大人も子どもも地元住民も来訪者もこの「非日常」の心地良さに心を躍らされました。

「そのべ本陣・春まつり」。それは、かつての城下町のぬくもりや歴史を感じてもらおうと、町家を



▲本陣「新屋」跡での紙芝居

舞台上に『まちなかを再発見する会』が催した交流イベント。「本陣」とは、江戸時代、参勤交代の折に大名が宿泊所として使用した家のことで、本町にはこの本陣であった「新屋」跡（元小林酒店）があります。

春らんまんの午後、本陣跡の軒先には「本陣」と染め抜かれたのれんが掛けられ、商店街一帯が開け放たれました。紙芝居、ザリガニ釣り、クワガタ相撲など、昔の遊びに目を輝かせる子どもたち。かつて旅籠であった合羽家旅館ではお茶席が設けられ、手入れの行き届いた庭も開放されました。生身天満宮（美園町）の春祭りも同日に行われ、みこしやお稚児さんが行き交い、伊勢大神楽の獅子舞奉納もあり、多くの人でにぎわった一日となりました。

町並みの歴史を感じて

『まちなかを再発見する会』の代表を務める竹中潔さん（右下の写真）は本町商店街で人形と玩具の店を営まれていました。昨年、土地区画整理事業の対象となった店舗から、倉庫として使っていた同区内の現在の地へと移転されました。

竹中さん

「再開発や高齢化で、歴史ある建

物や店舗が姿を消していき、貴重な町並みがどんどん失われていくのは惜しい。この旧城下町、特に本町は、妻入り（妻側）に出入口がある建物」と平入り（平側に出入口がある建物）の家が混在して残っています。この場所に、都会的な空間を求めるとはちよつと違うと思います。そこで、この歴史と情緒のある町並みをとをみんなでもう一回考えてみよう

と、『まちなかを再発見する会』を始めたんです。まちは住んで、生活をしてこそ『まち』。もう一度、人が集える場所にしていきたい」

現在、竹中さん夫婦は町家の風情を取り入れた新店舗で、人形の



▲和の“ほんまもん”が並ぶ店内

竹中さん

「もうけにはなりません、その工程を考えるとちゃんと価値が分かっています。ほんまもんには、やっぱりそれだけの良さがある。今の場所に移転してから、この近くにも職人さんがたくさんおられることを知りました」

店の奥座敷からは格子越しに通りを歩く人が見え、町家ならではの和の風情が感じられます。「そのべ本陣」開催前には幾夜も会員がここに集まり、話し合いが重ねられたそうです。

